

ひょうご農地・水ニュース(第25号) 令和4年3月

ひょうご農地・水ニュース



今年度もコロナ禍ではありましたが、農地や水路、さらには美しい景観、豊かな生きもの、綺麗な水を守り育む地域ぐるみの活動が県下各地で熱心に行われました。

また、11月には、14回目となる「ひょうご水土里のふるさとフォーラム」が開催された他、12月～1月にかけては活動組織研修会が開催され、多くの活動組織関係者が参加されました。

今号では「ひょうご水土里のふるさとフォーラム」や「活動組織研修会」の記事を中心に掲載しています。

contents

- P.2～3 第14回ひょうご水土里のふるさとフォーラム
- P.4～5 優良事例地区の取組を紹介
- P.6～7 活動組織研修会 / お知らせ
- P.7～8 お知らせ / 編集後記



兵庫県多面的機能発揮推進協議会
ホームページ
<http://hyogo-nouchimizu.com/>



NEW

兵庫県多面的機能発揮推進協議会
公式LINE

ID: @967ylkis

是非ご登録ください!



監修: 兵庫県農政環境部農林水産局農地整備課

発行: 兵庫県多面的機能発揮推進協議会

兵庫県土地改良事業団体連合会

第14回ひょうご
みどり
水土里のふるさとフォーラム
ひろげよう、交流の輪

【とき】
令和3年11月30日(火)
【ところ】
神戸新聞「松方ホール」



第14回目となる本年度は、地域内外や世代間交流など関係人口の拡大による持続可能な農村社会の実現に向け、「ひろげよう、交流の輪」をテーマに開催しました。

新型コロナウイルス感染防止対策のため、入場者数を定員の半数以下である約300名に制限し、受付での検温・消毒を徹底して開催しました。



セレモニー



西村会長

主催者として西村会長より、「兵庫県は全国の中でも農地水保全活動を積極的に行っており、活動を継続するためにこのフォーラムで紹介された優良事例を是非とも参考にしてほしい。」と挨拶がありました。



荒木副知事

続いて荒木副知事より、「この活動は様々な効果をもたらしている。幅広い世代との交流が生まれ、そこから地域コミュニティが発生していることは素晴らしい。」と活動に対して、感謝の言葉がありました。



宮崎政務官

次に来賓挨拶として宮崎農林水産大臣政務官より、「国政において地域の農地・水を守り、更なる発展のために尽力していく。」と力強い言葉がありました。



星野委員長

その後「みどり豊かなふるさと大賞」の授与式が行われ、令和2年度、特に優れた取組を実施した活動組織に賞状と記念品が贈呈され、本県の第三者委員会である「豊かなふるさとづくり推進委員会」の星野委員長より「コロナ禍で活動が難しい状況であるが、受賞地区は創意工夫し、困難な状況を跳ね返す力を見事に示した。」と称える講評があり、今後の活躍に期待を寄せられました。



知事賞 授与

市御堂農地・水・環境保全会 (朝来市)	下三井庄地区農地・水・環境 保全向上活動の会 (丹波市)	高橋区環境保全隊 (福崎町)	三野畑農地水環境保全隊 (洲本市)
委員長賞			知事賞

事例発表

知事賞を受賞した洲本市の三野畑農地水環境保全隊の原田氏より、「元気で魅力のあるふるさと」を次の世代にバトンタッチ出来るよう、ほ場整備などハード面の強化やコミュニケーションを大切にしたい世代交流などソフト面の強化を積極的に取り組んできたことをご紹介します。



原田氏

人・農地プランの実施や就農研修生の受け入れも積極的に行うことで、集落の活性化に繋がっている様子も発表されました。



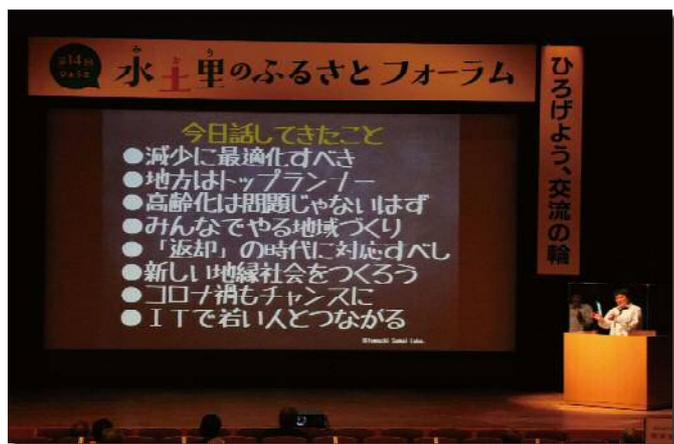
基調講演

「ひろげよう、交流の輪」をテーマに、地域づくり専門家の合同会社 人・まち・住まい研究所 代表社員 浅見雅之氏による講演が行われ、



浅見氏

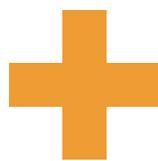
スライドを400枚も活用したテンポ良い軽妙な語り口で、参加者の興味を引き付けていました。



人口減少社会・コロナ禍を越えて、地域が長続きする秘訣！

※人口減少に最適化した地域社会を作るべき

→ “人口が増える”=幸せ
 “人口が減る”=不幸せ
 このような発想を捨てるべき
 地方は社会のトップランナー。
 コロナ禍もチャンス！



※若い世代と繋がる

時代に則した新たな地縁社会の発足

→ ITを活用し、誰もが自由にもものが言えて、何を言っても怒られない社会を作る

パネル展示

ロビーにて県下の優良事例や特色ある活動の紹介、草刈り対策や水田・ため池貯留等のパネル展示や、各種パンフレットの設置等、多くの人々が興味津々に見ていました。



パネル展示



パンフレット展示

優良事例地区の取組が紹介されました！

本年度の『みどり豊かなふるさと大賞』受賞地区の取組がサンテレビ番組「あんてなサン」で紹介されました。放送に先立ち、受賞地区各地で番組の取材が行われた際に、協議会も同行し独自取材を行いました。

サンテレビ「あんてなサン」のホームページ先は下記 URL 先になります。

見逃した方は [こちら](https://sun-tv.co.jp/antena-sun/oa_movie) ▶ https://sun-tv.co.jp/antena-sun/oa_movie

みのぼた 三野畑農地水環境保全隊（洲本市五色町鮎原三野畑）

知事賞

取材日：令和3年9月25日

上下関係や世代の壁を越えた交流活動を行っており、有機農業や就農研修生の受け入れなど、未来を見据えた農業経営に取り組んでいます。このような将来性を感じさせる、活力ある地域づくりが特に評価され、知事賞を受賞しました。

取材当日は、三野畑地区を巡りながら、^{あいはらまい}鮎原米や^{きわみ}極味たまねぎ、淡路島いちじくなどの淡路の温暖な気候を生かした様々な特産品や生産者が紹介されました。



三野畑生産組合の方々

その他にも三野畑地区では農用地周りの草刈りを含めた里山整備、あるこう会など世代間交流の場を設けており、若い世代と共に活力ある地域づくりを進めています。



「若者と女性の夢を語る会」話し合い



自然豊かな白巣の風景



刈取り前の鮎原米

たかはし 高橋区環境保全隊（神崎郡福崎町高橋）

委員長賞

取材日：令和3年9月30日

地域内の福祉施設と連携した特産品の6次産業化や植栽の管理などの農福連携に積極的に取り組んでいます。また担い手の営農組合を中心に学校との農業体験やヘアリーベッチを作付けした水稻栽培も行っており、こうした新たな取り組みや環境創造型農業の推進が評価され、委員長賞を受賞しました。

取材当日は、芋ほり体験が行われ、地域の小学校から2年生と3年生の合わせて約130名が参加し、盛況に開催されました。



芋ほり体験



特産品のもち麦・特別栽培米



福祉施設利用者による特産品の袋詰め作業

また地元福祉施設との連携により生産される、特産品のもち麦を加工したポン菓子「もちむぎポンッ！」やひょうご安心ブランドの認証を受けた特別栽培米も紹介されました。





しもみのしょう

下三井庄地区農地・水・環境保全向上活動の会（丹波市春日町下三井庄）

委員長賞

取材日：令和3年10月24日

美しい里山景観を地域の財産としてとらえ、「協働と交流」をスローガンに収穫体験や里山づくりなどの都市住民も参加できる交流イベントを、地域内の多様な活動団体と連携し開催しており、活力ある地域づくりを行っています。こうした農村環境づくりが評価され、委員長賞を受賞しました。

取材当日は、ため池のかいぼりによる生き物調査や支障木の伐採が行われ、施設周りの環境整備を実施しました。



ため池の生き物調査
・支障木の伐採



黒枝豆収穫体験



都市住民との交流(大路こどもの森)

また都市部の親子連れが丹波名産の黒枝豆の収穫、調理体験を実施し、都市農村交流が図られました。



いちみどう

市御堂農地・水・環境保全会（朝来市和田山町市御堂）

委員長賞

取材日：令和3年11月18日

岩津ねぎの栽培が盛んな地域で、女性や新規就農者が活躍しています。地域ぐるみでの共同活動や景観形成、話し合いに取り組んでいます。また、女性・新規就農者の受け入れ拡大により、地域一体で農地保全・有効活用に努めています。このような将来性のある活動が評価され、委員長賞を受賞しました。

取材当日も女性農業者による朝来市特産の岩津ねぎの収穫作業や箱詰め作業が行われました。



特産の岩津ねぎ 加工品

また白根から青葉まで食べられる岩津ねぎの特徴を生かし、6次産業の一環として地元企業と共同開発している数々の加工品が紹介されました。



女性も参加した岩津ねぎの収穫・箱詰め



女性全体の植栽手入れ

活動組織研修会を開催しました

今年は「地域の世代間交流促進による後継者やリーダーの育成方法」「効率的な鳥獣害対策」をテーマに、後継者の育て方や獣害防除対策等について啓発し、県内5会場で約1600名の方に参加いただきました。尚、新型コロナウイルス感染防止対策のため、収容人数の半分以上に制限し、消毒の徹底のもと開催しました。

ここでは、研修内容を抜粋してご紹介します。

【豊岡会場】	豊岡市民会館	令和3年12月6日（月）	（参加323名）
【三田会場】	三田市総合文化センター	令和3年12月21日（火）	（参加238名）
【三木会場】	三木市文化会館	令和4年1月17日（月）	（参加458名）
【洲本会場】	洲本市文化体育館	令和4年1月21日（金）	（参加192名）
【たつの会場】	赤とんぼ文化ホール	令和4年1月25日（火）	（参加350名）



1. 後継者の育成について【講師：合同会社 人・まち・住まい研究所】



後継者の育成について、高齢化が進む中で高齢化をマイナスに考えず、若者や女性が参画しやすい地域づくりの重要性とこれからのリーダー像についての解説がありました。

地域のリーダー / 後継者の育て方における重要な要素

※リソースを最大限活用する

女性の参画、若者の参画を目指す



若者や女性から話を聞き、誰が何を言っても怒られない社会づくりが必要



※優秀なリーダーは待っていても突然現れない

優秀な人材がリーダーになるという認識を今すぐ変えるべき



リーダーはみんなが認めて育て上げるもの

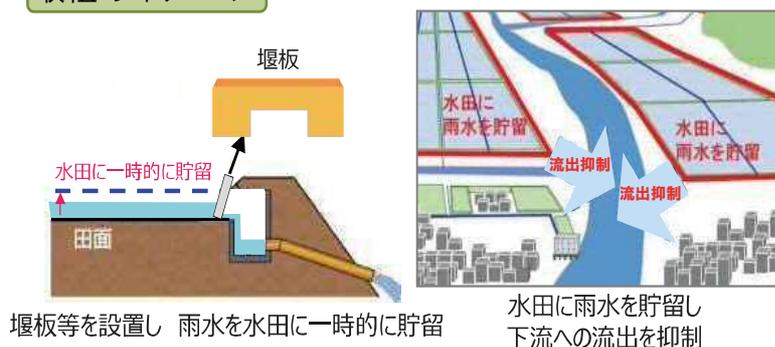
2. R3年度制度改定のポイント【講師：兵庫県農地整備課】

田んぼダム加算制度が新たに創設され、取り組む場所の留意点や面的にまとめて実施することの必要性が啓発されました。

【単価】	資源向上支払（共同）	
300円/10a	}	新たに創設する加算単価
1800円/10a		従来の単価
		事業計画期間 5年

- 【要件】
- ①市町による水田貯留機能強化計画の策定。
 - ②活動組織による事業計画への位置付け。
 - ③事業計画期間中に資源向上支払（共同）の交付の田面積の1/2以上で取り組むこと。

取組のイメージ



地域でまとめて田んぼダムを実施しよう！

3. 獣害防除対策について【講師：兵庫県森林動物研究センター】

獣害被害に対する対策方法について、野生動物を田畑に呼び寄せてしまう原因や、逆に野生動物を田畑から遠ざける手法や考え方を、野生動物の専門家である県の森林動物研究センターより解説いただきました。

野生動物にとって居心地の悪い場所とは



集落を野生動物にとって居心地が悪くて餌が少ない場所にする

「集落を野生動物にとって居心地が悪くて餌が少ない場所にする」ための5箇条

- 1 エサをなくす・・・誘因物をなくす
- 2 環境改善・・・居心地を悪くする
- 3 囲い込む・・・寄せ付けない
- 4 追い払う・・・恐怖心を与える
- 5 捕獲する・・・捕まえてしまう

対策は“足し算”ではなく“かけ算”
1つがゼロだと効果はゼロに

野生動物ごとの習性や特徴を理解したうえで
これらをバランスよく組合せることが重要

研修資料は、当協議会のホームページよりダウンロードしていただけます。下記 URL や左記の QR コードぜひご活用ください。

<https://hvogo-nouchimizu.com/information/>



お知らせ

話し合いはできていますか？

コロナ禍で集まりにくい状況ですが、皆さんの地域で「話し合い」はできていますか？
円滑な活動や地域農業の将来を考えるには、日頃からの意思疎通が重要です。

書面開催や少人数分散、ITの活用や広報での周知等、できる方法で継続しましょう！

毎年1回以上の「話し合い」を踏まえて、活動5年間の中で地域農業の将来を踏
まえた「地域資源保全管理構想」を策定することが必須となっています。

感染防止対策に留意しつつ、地域農業の将来を考える話し合いを行いましょ！



お知らせ

のぼり旗の配布について

来年度、広報・啓発に役立つ「多面的機能の発揮」と「田んぼダム」に関する2種類の「のぼり旗」の配布を予定しています。

「新しくのぼり旗を設置したい」「ボロボロになったのぼり旗を新しくしたい」などお考えの方は、各市町の担当者まで種類や枚数を一緒にお知らせください。

※旗のみの配布で、ポールは配布は予定しておりません。
ご了承ください。



お知らせ



協議会公式LINEについて



兵庫県多面的機能発揮推進協議会の公式LINEを新設しましたので、登録追加をお願いします。

友達追加することで、新しい情報をリアルタイムに、より便利に受け取れるようになりますので、是非ご利用ください。



LINEの「友だち追加」から左のQRコードを読み込むか、下記のIDをご検索ください。

@967ylkis

お知らせ

R4年度版事務支援システムの変更点

R3年度版では修正画面を開くと時間のみがデフォルトに戻ってしまう不具合がありましたが、R4年度版ではこの不具合を修正し、制度改正に対応したものを配信します。

※配信時期は2022年5月末を目途に予定しておりますが、使用に関しては市町担当者へお問合せ下さい。



修正画面を開くと時間だけがデフォルトに戻ってしまう

お知らせ

草刈りフィールド・ラボ現地研修会開催のお知らせ



来年度も佐用町にて、現地研修会を7月頃に開催する予定です。

リモコン式など最新の草刈り機械等を体験と併せて、草刈り機の安全使用に関する研修も実施しますので、ぜひ挙ってご参加ください。

編集後記

早いものでもう年度末となりました。今年度も新型コロナウイルスの影響で思うような活動が出来ない組織の方々もおられたかと思えます。そんな中で今号に掲載している研修内容や優良地区に選ばれた組織の取組み等が皆様の活動の一助となれば幸いです。「ひょうご農地・水ニュース」ではこれからも様々な情報を発信していきますので、是非とも日々の活動にご活用ください。